名鉄太田川駅から東へ延びる歩道約600mには、シランやセッコク系デンドロビウム、フウランなど、12種類のランが約6，000株植栽されています。

なかでもシランは、愛知教育大学名誉教授の市橋先生が品種改良された、個性あるオリジナルの16品種をはじめ、珍しい色の野生種等、他ではなかなか見ることができない貴重な花を楽しむことができます。

ランの道 監修

Supervisor

愛知教育大学名誉教授
市橋 正一 氏

＜研究分野＞
花き園芸学、ランの生物学

＜研究課題＞
ラン科植物の無菌増殖法に関する研究
野生ラン科植物の種子繁殖法に関する研究
難発芽性ラン科植物の種子発芽法の開発
ファレノプシスの好適栽培条件の解明
ファレノプシスの栽培管理法の改善普及

＜所属学会（元）＞
園芸学会
日本植物細胞分子生物学会
農業教育学会

愛知教育大学の教授として、花き園芸学、ランの生物学等の分野の研究に携わってこられ、東海市の生産者とも長年にわたり関わりのあったご縁から、太田川駅東歩道「ランの道」の監修をしていただいています。

管理ボランティア

Volunteer

大田まちづくりの会
蘭の道グループのみなさん

水やり、雑草取りなど、日常管理の中心を担ってくださっています。

訪れる人たちに楽しく散策してほしい、そして、「ランのまち」東海市を次世代へ引き継いでいきたいという思いをもって、日々ランの道づくりに尽力されています。

ランのまち、東海市。

＜始まりは牡丹（ぼたん）栽培から＞

本市の花卉園芸の歴史を辿ると、始まりは江戸時代の中期、現在の大田町で牡丹栽培が行われていたことがきっかけと言われています。

大正時代には村の特産となり、花を見に訪れる人々のため、当時の太田川駅南に臨時の停留所がつくられるほど盛んであった牡丹栽培ですが、昭和 17 年（1942 年）頃には、戦時中の作付制限等の理由から、姿を消してしまいました。

＜観葉植物時代の到来＞

知多半島で観葉植物の栽培が始まったのは、昭和 28 年（1953 年）からと言われていますが、販路が開拓されるにつれ、本市でも盛んに生産されるようになりました。アナナス、観音竹、ヤシ等、様々な観葉植物が栽培されましたが、なかでもアナナスはブームが起こり、栽培されているところへ観光バスが訪れることもありました。

＜洋ランの栽培が増え始める＞

昭和 35 年（1960 年）頃、観葉植物時代の到来とともに、洋ランの栽培も始まりました。昭和 40 年（1965 年）代中旬にメリクロン苗（培養技術により増やした苗）が普及すると、大量生産が可能になったことで、生産者も増え、洋ランは本市の特産品になっていきました。

＜未来に繋げていくために＞

「ランの道」づくりは平成 29 年度（2017 年度）から始まりました。太田川駅周辺の区画整理事業に伴い、「大田まちづくりの会」の皆さんから、まちの活性化のため、市の特産であるランを植栽してはどうかと提案をいただいたことがきっかけです。

東海市の新しい観光名所になることを目指して、市民参加による植栽会や、大田まちづくりの会「蘭の道グループ」の皆さんを中心とした日常管理など、多くの人の協力のもと、ランの道づくりは現在も続けられています。

― 市民植栽会は、あいち森と緑づくり税を財源とするあいち森と緑づくり事業により実施しています。―

らんのまち
Tokai City

太田川駅東歩道

ランの道

見どころガイド

【シラン（紫蘭）】
開花期:５月頃

2023年4月作成